

おきなわの麻しん・風しん対策

沖縄県保健医療部地域保健課結核感染症班 2017.7.28

1. はしか0プロジェクトについて

- 平成10年～13年に沖縄県では麻しんが流行し9人の小児が亡くなった。
- もしも、沖縄で多くの子供達が予防接種を受けてさえいれば、悲劇は防げたかもしれない。  
→平成13年4月はしか〇プロジェクト委員会発足
- はしか〇プロジェクト2大対策
  1. 予防接種率アップ対策
  2. 発生時対策（まん延防止）
- 平成14年より毎年5月の母の日にはしか〇キャンペーンを開催。その1週間をキャンペーン週間とし、保健所、市町村等にてイベント等を開催し、予防接種実施の周知を図る。
- 平成15年に県独自で麻しん全数把握制度（全例PCR実施）を開始（国は平成20年に全数把握5類疾患に改訂）
- 平成25年風しんが全国的に流行。沖縄県でも52件発生。
- 平成26年キャンペーンに風しんを加え、「はしか・風しん0キャンペーン」を実施。
- 平成22年から平成26年の輸入例報告1例を除いて、県内発生報告はない。

はしか〇プロジェクト委員会



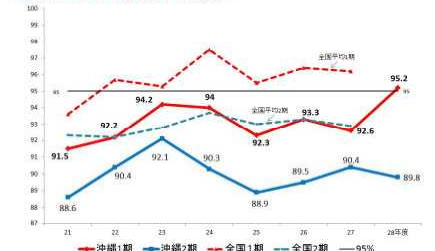
はしか・風しん〇キャンペーン週間



しかし

- MRワクチン接種率は、95%を下回り、全国ワースト1！
- キャンペーン実施以外に毎年、市町村担当者研修会を開催し、接種率向上について、確認を行っている。

麻しんワクチン接種率の経過

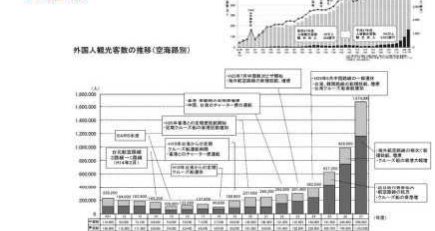


2. 観光客の増加と国際イベントの対策について

①観光客数の増加（国内、国外）

- 昨年の関西空港の麻しん発生事例にあるように、輸入感染症対策の一環として、観光部局に協力してもらい、インバウンド産業の従事者に対して、「観光業に関わる方に知って欲しい感染症」について、各地域で啓発を行った。
  - ・観光産業従事者が注意する感染症（麻しん等）
  - ・観光客が注意する感染症（レプトスピラ等）

沖縄県の観光客数の推移



②国際的イベントの対策

- 近年沖縄県では、国際会議、大規模なスポーツ大会等を誘致
- 昨年10月に「第6回世界のウチナーンチュ大会」が開催され26カ国約7,500人の参加者が来沖した。
- 当時ジカウイルス感染症が流行しているブラジルから1,000人以上、その他南米、アジアからも多数来沖するため、感染症担当課では、強化サーベイランスを実施。1ヶ月間毎日各種サーベイスを活用して、早期探知に努めた。
- 麻しん対策については、改めて全数把握事業について医療機関に疑い報告の徹底を行った。1ヶ月間で3例の疑い例が報告され、陰性を確認している。

県観光部局と協力してインバウンド連絡会議に参加



3. まとめ

今後も同様な国際的なイベントの開催、また、観光客の増加や、米軍基地の存在等、麻しんを含む輸入感染症の発生リスクが大きい沖縄県においての感染症対策は、市町村、医療機関、学校等、県民が一丸となって引き続き強化していかねばならない。  
予防接種率の向上は、主な対策に位置づけている。引き続き、啓発活動を強化していく。

国際的イベントの対策

第6回世界のウチナーンチュ大会

【概要】平成28年10月26日(前夜祭から30日)に、「第6回世界のウチナーンチュ大会」が、海外から約5,300名以上を迎え、那覇市内の会場を中心に開催される。  
(最終報告は26カ国約7,300人参加)

【強化サーベイランスの実施】大会開催に伴い、常時行っているサーベイランスに一定期間強化するサーベイランスを加え、その分析等の情報を関係機関に、迅速に共有することにより、感染症等の異常な発生の早期探知並びに迅速な対応を行うことで、被害の拡大を防ぐことを目的として、沖縄県内全域において「強化サーベイランス」を実施した。

